

対談

# 市民の会の皆さんとの対談を開催しました。

来る6月11日、当院の影山統轄副管理者と、市民の会の代表の皆さん、雲南市の保健師さんと、「雲南病院の現状と今後について」をメインテーマに対談を行いました。その概要をご紹介します。



でも、医師不足・看護師不足で非常に厳しい状況であり、経営的にも20億円余りの累積欠損金が生じており、昨年度は雲南市から8億円の支援を頂いて運営をしている。今後も支援を頂かなければならないが、経営改善に努め5億円前後の支援で経営ができるように努めたいと思っており、病院としても、医師を中心に必死にがんばっている。特に先生方には限界寸前まで頑張っていたらいている。

——経営が厳しくなった要因はどのように分析しているか。——

影山 基本的には国の医療費抑制策が一番の要因ではないか。診療報酬のマイナス改定や、平成16年度からの医師臨床研修制度を必修化したことによる大学からの派遣医師の引き上げ。更に、7対1看護の導入により、都市部の大病院で看護師をたくさん確保するといった状況が発生し、地

影山 昨年の12月に統轄副管理者を拝命した影山です。今日は忌憚のないご意見をたくさん伺いたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

——最初に雲南病院の現状について影山統轄副管理者に伺う。——

影山 全国的にも医療を取り巻く現状は厳しいものがある。雲南病院に関し

会長をしています久我です。加茂を中心に活動をしています。加茂は去年の6月に市民の会が発足しました。よろしくお願いいたします。

和泉 雲南市健康推進課で保健師をしている和泉です。木次の生まれで吉田に嫁ぎ、この4月から本庁勤務をしています。よろしくお願いいたします。

宮川 がんばれ雲南病院市民の会の会長をしています宮川です。出身は海潮地区です。よろしくお願います。

久我 雲南病院を支えよう市民の会で



(がんばれ雲南病院市民の会 会長)  
宮川 昇氏



(雲南病院を支えよう市民の会 会長)  
久我 卓央氏



(雲南市保健師)  
和泉 ちひろ氏

域の病院の看護師が大幅に不足するということが起こった。これらが大きな要因ではないかと考えている。

——市民の会の皆さんは雲南病院の現状についてどう感じているか。——

宮川 雲南病院がなくなってしまうといけないということから、昨年の3月にがんばれ雲南病院市民の会を発足した。国の医療制度改革によって医師・看護師不足が生じたのは現実だと思う。大東では先生方に地区に出ているが、医師不足や救急外来などの病院の現状を話してもらっているが、いろんなことを徹底していかなければいられない。市民も現状を知っていくことが大事だと思う。

久我 やはりみんなの思いは雲南病院がなくなってしまうということである。松江・出雲・雲南と三角形にな

ついているが、いざ入院になると松江よりも雲南の近い所で高度な医療を受けた方がいいのがみんなの意見である。ただ、現在悪循環になっていて、医師・看護師不足により救急も一時受入れ拒否みたいな悪い評判が広がって、みんな雲南病院へ行くのはやめようというようになった。しかし、市民の会を立ち上げてみて分かったが、現状を知っている人があまりにも少ない。ただ単に医師がいけないというのではなく、なぜそうなったのか原因を市民も理解をすることが大事である。コンビニ受診にすることも、加茂の場合は小児科の医師に来てもらって、親を含めてお話をした。そういった地道な活動も必要だし、そういうことを含めてどういうふうになればよいか、現状を知ることが必要であると思う。一番の思いは、病院がなくなると困るといことである。

——それぞれの会長さんからの意見を

影山 統轄はどう受けとめたのか。——

影山 地元の市民の会より、病院がなくなってしまうという熱いメッセージは非常によく伝わった。医療現場のスタッフは一生懸命働いているというところをこの場を借りて改めて申し上げたい。救急対応を考えてみると、当直医師は1名で看護師は2名必要。またそれだけではなく、各科で待機している医師もいれば、検査科・放射線科のスタッフも待機をしている。救急というのはそういうシステムで初めて成り立つて市民の皆様安心して守っている。また、昨年より人工関節センターを開設し、来週より緩和ケア外来を開始することも決まりました。なんとか良い形で地域に貢献できればと思っている。

——次に、雲南病院を市立化していくという方針が示されたが、そのことについてどのように考えておられるか意見を

を伺いたい。——

影山 雲南市議会の本年の3月議会において雲南病院を市立化するという方針が打ち出された。雲南市として地域医療を守るといった強いメッセージであると考えている。我々としても、市立病院として恥ずかしくない病院にならなければならないと思っている。そういったことで、改革・改善に向けたステップアッププランという改革プランを作成し、様々な項目について目標を立てたところである。

宮川 今回の市立化によって、雲南病院は雲南地域の我々の病院であると市民も意識するであろう。またそうでなければならぬと考えている。良い時も悪い時も市民が支えていくのが大事で、現在の雲南病院を立て直す時の市立化はひとつの起爆剤ではないかと考えている。

**久我** 先ほどから話しているが行政の病院への思いというのは同じであると思う。国の制度の良い悪いというものもあるが、福祉と医療というものは行政が相当携わっていくべきものであって、手が抜けないものであると考える。市立病院化というのをしっかりと位置付けをして、雲南市が本場にやるんだというのを表明するのは大事であると思う。今まで雲南病院を他人事のように考えていたが、自分たちの病院であると考えたら、それぞれに見方も変わってくるだろう。今度市立化したら、市民の血税が注ぎ込まれるので、相当市民からの見方が変わってくると思う。これから市民の病院への声が大きくなっていくので、病院側も受け止める体制を整えなければならぬと思う。しっかりとステップアッププランを実行すれば、歯車が噛み合っていくと思うし、そうしなければならぬ。そうすれば経営もうまくいくだろう。そうすれば行政としても我々の病院にお金を注ぎ込むのは当然というふうになっていくと思う。

**影山** 市立病院ということはどれだけの税金が投入されるのかということでもあり、病院職員あげて意識改革を行い更なるスキルアップをしなければならぬと改めて思った。これから市立病院化に向けては、雲南市・住民と一体となって取組んでいくことが必要である。特に市の保健行政と一体となって取組んでいくことが非常に重要になっていくと思っている。

かなという思いはある。こういったことは、市立化になったときは行政と一体となって取り組むことが大事である。

**久我** 病院にも2つの顔がある。1つは企業としての顔ともう1つは予防する顔。普通民間病院は経営的なことがあるので予防というのを行わない。市立病院化になって予防の面では、保健師さんと一緒に取組むことができると思う。今、雲南病院の顔をどうするかと言ったときに、健診等の予防を全面に出して雲南地域に貢献すると、結果的に市立病院化したときにやっつて良かったと思うのではないかと。保健師と市と病院と一体となって予防に取組んで、いつでも健診が受けられる体制を作っていくと、2つの顔を作っていくことはよいことではないかと考える。

——次に今後の雲南病院が目指すべき方向性について伺いたい。——  
**影山** 地域連携というのは強く意識をしている。病院でいえば、かかりつけ医である開業医さんとの連携が益々重要になっていくのではないかと考えている。また、島根大学などの各大学や松江や出雲の高度医療を担っている各病院と連携を更に強めることも重要である。雲南病院ですべての病気が解決するといった完結型は今後むずかしいのではないかと考える。この病院での役割を市立病院化までどう位置づけていくのか。そのためには市民の皆様との理解を得ながら進めていかなければ



——保健行政との連携について、雲南市の保健師としてはどのように考えているか。——

**和泉** 雲南市は要介護の人が多いが、現場のスタッフの人に聞くと、自宅で最後を迎えるために頑張っている方が多いようである。ただ、元気な高齢者を見て膝や腰が痛かったりしても、都会から息子たちが帰ってくるまではがんばるといったようにみなさん高齢の方が頑張っている。それを支えるために介護保険事業があり、介護予防事業を実施しているが、医療の面でも重要であると思っている。ちよと何かがあった時に診察してもらって、

入院が必要となれば受け入れる病院が必要と思う。病院の医師・看護師・スタッフの努力により、また自宅へ帰られるといった循環ができていたのが雲南市ではないかと思っている。一方で、高齢期の方々を支える40〜50歳の方がガンで亡くなるというケースが多くなっている。また今、メタボ健診を行っているが、生活習慣病に關して生活習慣の改善を子供の頃から実施しようと思ったときに小児科の医師が親さんに話されるとか、行政では今までなかなかできなかった医師・看護師、その他の様々なスタッフが連携して、予防の時から住民の皆様と我々の知っている知識を共有できることが、よりいっそう健康になるために必要なことだと思ふ。その点では市立化に対して期待がもてる場所ではないかと思っている。

——雲南市と病院とが連携を取ること、住民の皆さんにどういったメリットがあるのか、もう少し伺いたい。——

**和泉** 高齢者の膝・腰痛については、すぐメリットがあるのではないかと。痛くても我慢している人はもうだめと思うのではなく、痛みを和らげるために筋力をつけたり医師の処方を受け、リハビリを日常的に取り入れる工夫をする事が大切。行政としても、地域の地域資源を活用しながら健康づくり活動の実践ができる施設づくりを検討している。子供達も一生懸命スポーツ活動に取り組んでいるが、スポー

としない。一方で人材の育成についても、地域医療人材育成センターを立ち上げ、島根大学からの研修医や医学生を受け入れたり、高校生、中学生の職場体験も行っている。また、医師看護師確保という面では、看護学生に対する奨学金制度を設けているし、雲南地域の地域枠での島根大学医学部への推薦入学制度もある。そういったところも雲南病院の責任ではないかと思っている。

——住民としてはどのように病院と関わっていきたく思っておられるか。——  
**宮川** 病院ボランティアの会を設立した。現在17名の登録があるが、やっていくうちに私でもできるのではないかと参加者が増えていくと思っている。病院については、もっと開放的な面が出ることを期待している。温泉を活用して予防やリハビリ訓練など実施してみてもどうかという意見もある。住民といっしょにもっと気さくで明るく会話ができる病院になってもらいたい。

**久我** もっと開かれた病院を目指してほしい。今は積極的に病院からPRをする必要があると思う。今の雲南病院にあったイベントを開催し、住民の皆様にもっと知ってもらいたい。市民の会は市民の会として医師に來てもらって講演等してもらおう。病院側でも何かイベントを開催するとよいと思う。そういった企画をされて募集をされたら住民は喜んで参加され



ッ障害が多いことを考えると学校での教育で養護の先生方と連携して、心と身体のバランスのとれた発育の促進ができるよう支援することが必要。この分野においても病院の整形外科を中心に関わりが取れていくのではないかと。糖尿病に關しては、どうしても遺伝的に左右されているので、本人だけの力だけでは解決できないところがあるが、生活習慣病としてのおおまかな備えをしていくことでコントロール可能な病気である。糖尿病も病院と連携して医師の指導のもとに生活を支える保健指導(保健師)、運動療法(理学療法士)、食事療法(管理栄養士)などのスタッフが個人に合ったトータル的なサポート体制をとることが可能である。こうした取り組みが市民の皆様にとっても一番のメリットではないかと思ふ。ガンについては、今、雲南病院でもガン健診をしてもらっている。実際、市内でマンモグラフィ健診ができるのも雲南病院だけである。マンモグラフィ健診に關しても市と病院とが連携をとって受診しやすい環境を整え、そのあとの医療やリハビリができる体制ができるのではないかと思ふ。

——保健行政と病院との連携について、市民の会の皆さんの意見を伺いたい。——

**宮川** 先ほどの意見は非常に大事だと思っている。特に健診に關しては、健診する人が少なくなってきたり、自分を感じることなのになぜなの

——それぞれの意見を伺ったが、最後に影山統轄にまとめていただきたい。——  
**影山** 貴重な意見をいただいた。今後については選ばれる病院にして行くことが重要である。そのためには、1つ目は利用者の満足度を上げること、2つ目は職員の満足度を上げること、3つ目は病院の満足度を上げること、いわゆる経営の安定化を図ることが大切である。この3つがうまく結ばれていけば、結果としてこの地域で選ばれる病院になると思っている。以前、岡山医療センターへ視察に行った時に、「花と笑顔と語りかけ」という言葉をスピーチにしているということで、この言葉をキーワードとして忘れられない。これを目指して真似をして、子供の時からみなさんに良いイメージをもたせていただける病院になったらと思っている。今後とも、皆様のご理解とご支援と叱咤激励を頂いてがんばっていかうと思っている。

※内容、表現等について一部編集させていただきます。